

「適材適所」

平角の供給で議論、部

国産材製材協会

積極的な意見も出た。協会では平角部会を立ち上げるなどとして引き続き供給体制の構築について検討していく考え。

東京理事長は平角の供給体制整備について「製材の原点はムク。木も成熟しており、花粉症対策の出口対策として具体化したい」とあいさつした。

国製協では杉は12社、桧は5社が平角の機械等級区分JASを保有しているほか、杉は4社、桧は3社が2年以内の取得を計画している。

会員からは、平角の普及について「やりやすい地域とそうでない地域があり、元の木阿た。

弥にならないよう、できる地域からまずは一部を変えていく努力が必要」「全部の寸法は難しく、適材適所で5寸、6寸から攻めていくのが大事」と具体的な方法論が提案された。



コストが下がらないが、自動化できるのは7寸まで。梁を見せたいから印字をしないでシールを張ると手間が掛かり、自動化が生かされない。在庫を持つと管理費も掛かり、利益が出るか疑問」などの指摘もあった。

機械等級については「ビルダーやハウスメーカーを顧客とするプ

機械等級材なら3000

PRO

フヨウプレカット

全層杉合板や秋田杉をPR

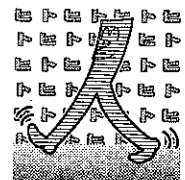
配送トラックをリニューアル

秋田プライウッド、エービー物流

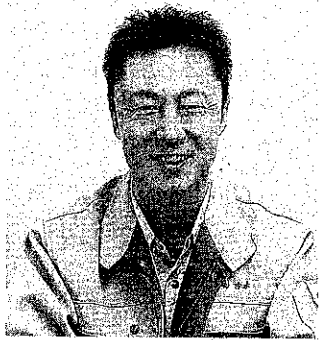
秋田プライウッドのPRにつなげてい(秋田市、井上篤博社長)はさきさき、製品の配送に使用する10トトラックをリニューアルし、同社製品や秋田杉、森林循環利用など

このトラックは同社のグループ会社で物流事業を手掛けるエービー物流(同、大類盛宣社長)が所有するもので、全面広告という形で連携した。

トラックの側面や後部全体には色合い鮮やかにプリントを施しており、側面の片面では秋田県産杉を100%



吉本新社長に就任した 由井 正宏氏



吉本は1887年創業で、長野県、岩手県、群馬県を中心に全国7カ所に6000診の社有林を持ち、素材生産から製材、土不加工、丸太、製品の販売を手掛ける。関連会社の大岳キャビネット工業で7年間はサラリーマンを経験したが、長男として子ども

のころから一貫して自分がやらなければとの強い思いを抱いてきた。受け継がれてきた経営の根幹は守り

11月27日付で吉本(長野県南佐久郡)の6代目新社長に就任した由井正宏氏は、「経営の根底にあるのは年輪経営で、会社の存続にこそ意味があり、受け取ったパトンを少しでも良い位置で次の世代に渡すことが自分の器量」と語る。現在46歳。「周りの会社は自分たちの世代にどんどん交代しており、焦りもあった」と話す由井社長は「歴史と伝統に安住せず、守るべきところは守り、攻めるべき時には時機を逃さず攻める会社になりたい」と意気込む。

守るべきは守り、攻める時は攻める

県内社有林の主伐、再造林に着手へ

ながら、時代に合わせ変えていきたい」と話す。群馬や岩手の社有林は主伐、再造林を始めているが、カラ松を中心とする佐久地域の社有林も主伐、再造林の時期を迎えている。

吉本は、国有林の請負事業を含めて年間2万4000立方尺の素

充実してきたことが社有林事業強化の背景にある。「カラ松は強度のほか、美観にも優れ、内装材としての需要拡大も見込める。主力の土木用材については機械設備や人員体制の見直しで販路拡大を進める一方、建築材としての用途開拓も図っ

会社については「時代に合わせた就業環境を整備し、従業員に当社を選んで良かったと思ってもらえる会社になりたい。会社をつないできた先代に感謝と敬意を払いながら、魅力があり、これまで以上に地域や業界で必要とされる会社にしていき

森未来(東京都、浅野純平社長)は14日から、「eTREE(イーツリー)」に製材所ポータルを追加する。270カ所の製材所の情報を都道府県別に集約している。

イーツリーは、同社が2020年から運営している木材情報の総合プラットフォーム

eTREEに製材所

全国の製材所